

令和6年度 2学年「ヒューマン基礎」授業報告

◎ 4月16日(火)

「オリエンテーションおよび進路実現について」

担当:本校教員

◇今年度実施の年間計画の確認と概要説明等を行った。

≪講義の様子≫



≪生徒の感想≫

私はこれからのヒューマン基礎の授業で大切にしたいことが二つあります。一つ目は自分の将来に繋げることです。様々な分野の講義を聞いて、そこから自分の分野にどう活かせるのかを考えていきたいです。分野は違っていても人と関わるという部分は一緒なので、自分がこれから関わっていく人の役に立てるように、ただ講義を聞くだけではなく発展させていきたいです。

二つ目は自分の長所を見つけていくということです。今回のオリエンテーションで自分の長所を考えた時に、自信を持って出せる長所がありませんでした。自分のことを相手に伝えるには、まず自分自身が一番に分かることが重要だと思うので、様々な講義を通して自分の良い所も見つけていきたいです。そして、私は受験で面接を使う可能性が高いので、語彙の幅を広げていきたいです。また、そのことを受験だけでなく、これから人と接する上でも必要なことなので、講義を聞きながら言葉の表現を吸収していきたいです。

今回のオリエンテーションでは、改めて自分の長所や就きたい職業を考えることができたので、とても良い機会になりました。2年生では1年生の時よりも自分の将来について考えるということが増え、学ぶことも多くなると思うので、真剣に自分自身と向き合う時間を増やしたいです。今の時点では行きたい大学が定まっていないので、この1年間でオープンキャンパスに行ったり、大学のことを調べたりすることで、自分の進路に合った大学選びをしていきたいと思います。また、保育士、幼稚園教諭に必要なコミュニケーション能力がまだ足りないと思うので、日頃から多くの人とコミュニケーションをとり、人と「話す」ことを得意にしていきたいです。そして、子どもに触れるということに全く慣れていないので、実習などを通して子どもの考えや行動を理解する力も身につけていきたいです。この1年間は本当にすぐに終わってしまうと思うので、時間を無駄にしないで生活を送っていこうと考えました。

2年生になって、ヒューマン基礎という授業が増えました。より一つ一つの講義に集中して取り組み、大学から来て私たちのために講義をしてくださる講師の方への感謝を大切にしたいと思います。今回のオリエンテーションでは、受講するにあたって重要なことを聞きました。一番大切だと感じたのは、欠席をしないという点です。火曜日だけで2時間の欠席になることを知り、気を付けなければと思いました。レポート提出では、その講義で学んだことを参考にし、講師の方にも見ていただくので、丁寧に正しく書くことを心がけたいです。私はこの1年間で看護の知識を増やし、少しでも3年生になった時に進路を決めやすくできるように頑張ります。

「自分を見つめ直してみよう」の項目で、自分の直していかなければならないことを知ることができました。例えば、「自立した人になる」という目標の中の「料理をする」ということを達成するために、まずは親の手伝いから始めていきます。また、コミュニケーション能力もこの1年で高めていきたいです。また、同級生と話すだけでなく、先生や先輩、後輩などたくさんの人と関わっていききたいです。来週から貴重なお話をたくさん聞くことができるので、1回1回集中して取り組んでいきたいです。お礼状も初めて書くので緊張するけれども、将来役立つと思うので、相手の方に失礼のないように頑張りたいです。

◎ 4月23日(火)

「看護とは～助産師の活動を通して～」

担当: 大手前大学 国際看護学部

吉川 恵理先生, 野間 洸佑先生

◇母性看護の重要性

◇母胎内の赤ちゃんの成長

◇小児に対する応急看護について

≪講義の様子≫



≪生徒の感想≫

今回は看護についての講義をしていただきました。将来看護師を目指している私には、一つ一つの話がとても勉強になり、貴重な体験をさせていただきました。吉川先生の講義では、主に助産師について学び、女性を取り巻く家族を一生支える大切な仕事だと知ることができました。私が一番勉強になったことは、出産をする時に助産師が二人いるのは、一人は妊婦さん担当の人で、一人は赤ちゃん担当だということです。ひとりひとりに向き合うことで、出産する時に安心感があるのだと思いました。助産師という仕事は、出産だけではなく、退院後の生活も考え、女性が自分自身の力を出せる支援をしているという話を聞いて、大変な仕事だと感じました。野間先生の講義では、主に小児救急看護について学びました。野間先生が実際にあった辛いことややりがいを感じる瞬間を話していただき、命が助からないという時にはその子どものことだけを考えるのではなく、家族に対してどのように話をするのか、そして何よりも子どもの最期をどうやって向き合っていくのかを考えなければならない、一つ一つに責任がある仕事だと改めて分かりました。

今回の講義で、「健康な人」への看護や、小児救急看護について学ぶことができました。「健康な人」への看護では、健康状態の確認が主になることを知りました。退院後のことも考えて看護をすることが大切であることも知りました。小児救急看護では、子どもの命を守ること、救うことが主な仕事であると知りました。私は小児看護の対象は子どもだけだと思っていたので、先天性の病気を持って生まれた赤ちゃんや大人も対象になることがあると聞き、驚きました。体験では、子宮の内で育っていく赤ちゃんの大きさを見たこと、赤ちゃんの心音を聴診器を使って聴いたことが印象に残っています。子宮の内で育っていく赤ちゃんを見た時、最初はすごく小さくて手のひらぐらいの大きさだったのに、最後には両手で持ってもずっしりと重みを感じるぐらいになっていて、10ヶ月ですごく大きくなるということを知ることができました。

今回の講義では助産師と小児看護について学ぶことができました。吉川先生は、お母さんと赤ちゃんだけでなく、女性とその家族の一生を支えることを大切にしていると言っていて、とても素敵だと感じました。赤ちゃんにばかり注目がいきがちですが、お母さん自身も大切にされるべき存在ということを知り、納得しました。また、退院後の母子の生活を見据えた支援をしなければならないから、お母さんの体を大切にするために、すべて助産師がやるのは違うということを知ることができました。また、小児看護については、野間先生は命を救えなかったことが辛かったと言っていました。それ以上に、子どもの元気な姿や笑顔がやりがいとなっているから、この仕事を続けることができているという言葉が印象に残りました。

私が今回の講義を受けて一番感じたことは、患者さんやお母さん方、家族の人とどうやって関わり、支えていくかが大切だということです。助産師はお母さん方に育児の方法を教えたり、心のケアをしたり、お母さんや赤ちゃんが家に帰ってから困らないようにしてあげるのも仕事だと知り感心しました。また、小児看護の話では、看護師は患者さんだけではなくその家族をどう支えていくか考えることがとても大切だと分かりました。また子どもの最期をどう迎えるかを考えた経験談を聞き、涙があふれそうになりました。私は将来、小児看護師を目指しているので、このような話を聞くことができるのはヒューマン類型に入っているからだだと改めて感じました。実習でも母子手帳のことなど新しいことをたくさん学ぶことができました。

◎ 4月30日(火)

「介護予防 ～福祉レクリエーション～」

担当: 履正社国際医療スポーツ専門学校

逢阪 幸右先生

◇平均寿命、健康寿命、福祉レクリエーションの目的について

◇福祉レクリエーションの注意点: 無理に参加させたりしない。能力を見極めてそれに合った活動をすすめる。

◇レクリエーションの実施: ①指導者と対象者の1対1の関係 ②身近な者同士の意思疎通

③小グループで気持ちを1つにする。

≪講義の様子≫



≪生徒の感想≫

今回は介護予防について学びました。高齢者が増えていく日本では、柔道整復師や理学療法士などの仕事が増えていることを知りました。福祉レクリエーションは、導入・交流・発展の順番が大切だということが分かりました。レクリエーションにはそれぞれの目的があり、2人や4人などの少人数から大人数までグループで楽しめるものがありました。ただ手を使うだけではなく、軽く動いたり、ボールを使ったりしました。どれも難しかったですが、レクリエーションをできるように声を出すこと、間違えてしまっても笑うことが大切だと学びました。それは、脳やコミュニケーションを活性化させるためです。また、高齢者を無理に参加させないこと、参加する高齢者の能力をきちんと見極めて適切な活動を進めることなど、大変なこともあると思いました。今日の授業で私は色々な人とコミュニケーションをとることができました。

今回、初めて介護予防という言葉を知り、あまり分からないままのスタートでしたが、お話を聞いて、転倒や骨折、認知症などを予防するためのことだと知りました。平均寿命だけ見ると、日本人は長生きだと感じるけれど、健康寿命の話を知ると、女性は12年も介護をした上で生活をした寿命だと分かり、少し考え方が変わりました。将来、もっと医療が発達したら、介護を受けずに平均寿命を迎える時が来たら良いと思いました。私は今まで看護師という職業のことだけを調べていたので、これからは理学療法士など、他の医療の仕事のことも調べ、将来の夢をしっかりと決めたいと感じました。また、高齢者に関わる仕事は医療関係やヘルパーだけだと思っていたのですが、将来の介護を減らすための仕事もあることを知りました。

私が今日の講義を受けて学んだことが二つあります。一つ目は、講義をする先生の明るさについてです。私の母は介護関係の仕事をしていて、いつも疲れた顔をして家に帰ってくるため、私は福祉にはあまり良いイメージを持っていませんでした。しかし、今回の講義をしてくださった先生はとても明るく、授業も楽しく受けることができたため、どの職業に就職したとしても明るさが大切だと思いました。二つ目はレクリエーションの体験についてです。ルールを聞いたときは簡単だと思っていましたが、実際に挑戦した時には頭が混乱してしまい、上手にできませんでした。介護予防の運動はどれも準備するものがなくても楽しくできるものばかりで、少しの空き時間にもできるよう、とてもよく考えられていると思いました。

私が今回の講義を受けて感じたことは、長生きすることよりも、健康であることが一番大切だということです。医療が発達している日本では、長生きすることはできるかもしれませんが、寝たきりになると好きなことができないので、介護予防の運動が必要だと分かりました。また、レクリエーションでは、じゃんけんを普通にではなく、少し脳を使うようにルールを追加したり、声に出したり、手を動かしたりして脳を活性化することが大切だと分かりました。そして、ペアで自己紹介をしながらゲームをしたり、4人1グループで脳を使いながら他のグループと競ったりすることで、たくさんの人と仲良くなり、介護以外の場面でも役立つのではないかと考えました。レクリエーション同様、私も何事にも楽しんで取り組みます。

◎ 5月7日(火)

「幼児教育と絵本の世界」

担当: 甲子園短期大学 幼児教育保育学科

尾崎 綾子先生

◇幼児教育の仕事について

◇絵本の大切さについて

◇朗読の基礎的技術と心得

≪講義の様子≫



≪生徒の感想≫

今回の講義を通して、幼児教育や絵本の大切さについて深く学ぶことができました。幼稚園では遊びを通して幅広いことを学ぶことができると改めて感じました。遊びを通して、好奇心・集中力・工夫する力・想像力・友達を思いやる力・コミュニケーション能力など生きるために必要なことを身につけることができます。例えば、積み木遊びでは、集中力や創造性の発達がみられます。積み木を重ねて家を作ることによって手先も器用になります。また、友達と一緒に家を作ることによって協調性やコミュニケーション能力を身につけることができるので、幼稚園の遊びはただ遊んでいるのではなく、一つ一つに意味があると改めて感じました。幼稚園では生き物を飼っているところも多くて、そこから命の大切さを学んだり思いやりの気持ちを養ったりできるなど意味があります。また、今回の講義では、絵本の素晴らしさにも改めて気づくことができました。絵本に向き合うことで、絵本に感動する情緒を育てられる、想像力を豊かにする、子どもが追体験ができるなどのメリットがあると感じました。

私は今回の講義を受けて、絵本への概念やこれからの絵本との関わり方について考えが変わりました。絵本には多くの魅力があり、感動をしたり、想像力を育んだり等、これからの人格形成の要因にもなっていると感じました。幼児が健やかに育つという基盤に絵本はなっており、例えば、0歳は愛情たっぷりですくすく育つ人格形成の大切な時期のため、愛情をこめてゆっくりと読み聞かせることが大切だと考えました。また、0～1歳の頃には、何回も続けて「ぐるぐる」や「まるーく、まるーく」という言葉が大好きなようなので、その特徴を活かして本を選ぶなど、年齢に適した絵本を選ぶことが重要だということも知りました。

私は今回の講義で、幼児教育と絵本の世界について2つのことを学ぶことができました。一つ目は、自分自身が楽しんで行うということです。私自身、先生が楽しんでいたのも、自分も楽しんで見ることができました。読み手の大人が楽しんでいたり、笑顔でいたりすると、子どもたちはよい影響を受けると思います。そのため、子どもたちに楽しんでもらうために、まずは私自身が楽しもうと思います。二つ目はコミュニケーションをとるということです。保育士は保護者の方ともコミュニケーションをとらなければなりません。良いことはもちろん、悪いことも話すため、広い視野を持つことも大切だと考えました。

私が今回の講義でもっとも印象に残っていることは、子どもは遊びの中の様々な要素を使って学んでいくということです。私は幼稚園に通っていたころ、工作が大好きでしたが、何か学んでいるという自覚はなく、楽しく過ごしていましたが、今思うと、ハサミやノリの貸し借り、友だちと一緒に作り上げる達成感など、たくさんのことを学んでいました。遊びの中にこうした学びが組み込まれていることが大切だと改めて分かりました。幼児教育での小さな経験の積み重ねで人は成長していくのだということを知ることができました。

◎ 5月21日(火)

「心理学について」

担当: 関西国際大学 心理学部

板山 昂先生

◇心理学ってなに？

◇対人関係のモヤモヤについて

◇ストレスとの向き合い方について

《講義の様子》



《生徒の感想》

今回の講義では、心理学について学びました。今回の講義を聞いて、心理学はスクールカウンセラーの仕事だけではなく、様々な分野の仕事に関係していることが分かりました。私の将来の夢は小児科看護師になることですが、心理学はこの分野でも使えると思いました。患者さんが今どのようなことを考えているのか、体の状態と心の状態を把握し、コミュニケーションをとり、患者さんの気持ちを知るきっかけにもなると考えました。また、対人関係で生じる対立の中には、「期待しすぎること」があると分かりました。期待された側には、期待にこたえなければならぬ義務は無いため、相談した側と考えがずれてしまう場合があります。その時に、落ち着いて問題がどこにあるのかを考えられるかどうかで、深刻さが変わると分かりました。このように、心理学に深く関わる仕事だけでなく、小さなトラブルに巻き込まれた時やストレスを抱えている友達の心に寄り添う時にも使えるため、心理学はとても大切だと感じました。

今回、心理学について深く学ぶことができ、心理学とは人間の感情や行動のメカニズムを科学的に研究する学問であることが分かりました。人間にはAタイプとBタイプがあり、Aタイプは「この感情を抱く人はこの行動を起こしやすい」、逆にBタイプは「この行動をする人はこの感情を抱く」というタイプデータ化を行い、次の行動を読み取れるようになります。また、人が関わることには必ず心が関係しているので、感情のままに生きず、行動の客観的理解、原因解決、結果の予測などを行うことで、よりよくこの社会で生きることができます。今回の講義を受けて、心理学の面白さに気づくことができ、興味が湧きました。

私が今回の講義を受けて一番学んだことは、どの仕事にも心理学は関係しているということです。私が一番記憶に残ったお話は、介護施設に入る方と看護師さんの行動についてです。荷物の配置を患者さん自身が決めることと、看護師が勝手に決めてしまうのでは、その患者さんのその後に大きく影響したり、看護師への評価にも影響してしまうことが分かりました。このことから、私は自分自身で決めることができなかったストレスや不満などが心に残ったのではないかと、心理学の点から考えることができ、そのストレスや不満などはどうすればなくなるのかなど、たくさんの視点から考えることができました。私が目指している看護師は、このように心理学の視点からも患者さんに寄り添うことができると考えました。

本日の心理学の講義を受けて、私の心理学という分野に対する考え方が大きく変わりました。心理学と聞くと、人間はこういう状況になるとこういう行動をする、このような場合はこういう気持ちになる、というような少し難しい分野だと思っていましたが、実際はとても身近なものでした。その中でも特に印象に残った内容は、対人葛藤についてです。対人葛藤は人間関係につきものだと考える人と、避けなければならないと考える人が二極化すると聞き、驚きました。また、学んだ内容を自分の立場に置き換えて考える、または実際に学びを自分で体験することで、より理解が深まると感じました。自分と重ねながらも、「確かに！」と思える学びが多く、とても楽しい講義でした。

◎ 6月4日(火)

「コミュニケーションと手話Ⅰ」

担当:伊丹市聴力障害者協会 久保 みどり先生

手話サークルこゆびの会 山内 滋子先生

◇聴力に障害が出る原因、聴力障害者のコミュニケーションの方法について

◇出会いは挨拶から・・・挨拶の手話表現

◇指文字の表現・・・自分の名前を指文字で表現しよう

≪講義の様子≫



≪生徒の感想≫

今回は手話についての講義でした。普段は手話についてよく考えることがないので、とても良い経験になりました。耳が聞こえるということは当たり前ではないと考えさせられた講義でした。耳が不自由な人は手話を使って人と会話をしている、その手話の一つ一つにも意味があり、たくさん教えていただきました。私がこの講義で一番印象に残ったことは、自分の名前を指文字を使って実際に表現してみるという単元です。個別に教えていただき、とても分かりやすかったのですが、少し動きが違うだけでまったく違う意味になってしまうので、難しいと思いました。また、横についていた通訳の方は、手話を見て瞬時に言葉に変えて私たちに伝えてくださり、とても難しそうだと思いました。基本の挨拶やお礼、名前の手話を教えていただいたので、これからは今日学んだことを活かしていきたいです。また、手話をする時は、ただ手を使って相手に伝えるだけでなく、表情をしっかりとつけることが大切だと教えていただき、とても共感できました。

今回の講義を通して私が一番学んだことは、言葉は声だけでなく、手話、ジェスチャー、表情などでも伝えられるということです。今まで、私は耳の聞こえない方がいたら、スマホを使ってコミュニケーションを取ろうと思っていました。しかし、講義の中でUDトークを使うとうる者の方も分かりやすいと聞き、使えるようにしておこうと思いました。また、口話をして言葉を当てるクイズでは、口の形だけだと「たまご」も「たばこ」も「なまこ」も同じ形でとても分かりにくいということが分かりました。このことから、指文字や手話が必要だと思いました。指文字と手話を使ってみて感じたことは、アルファベットやカタカナ、人の動作が由来になっていることです。「お」であればアルファベットの「O」、「き」はきつねの形、「おはようございます」の手話はふとんをめくり、人と人が向かい合って挨拶をする形になっているなど普段私たちが使っている文字や動作などがそのまま指文字や手話になっていて、私たちもとても覚えやすいと感じました。

今回は手話についてたくさん知ることができた。聞こえなくなった時期によって先天性と後天性と呼び分けられていることや、耳が聞こえなくなってしまった理由など様々なことを知り、とても驚いた。先生と一緒に指文字も練習して自分の名前を指文字で表せるようになって嬉しかった。名字を手話で表す方法も教えてもらい、簡単に自己紹介することが出来るようになり、もっと手話を学んで話せるようになりたいと思った。日常生活で使える挨拶などのやり方を教えてもらい、初歩的な会話もできるようになったから、困っている耳の聞こえない方がいたら話しかけたいと思った。災害などがあった時に、耳の聞こえない人に情報を伝えるためには、ジェスチャーや筆談、口語、空書、指文字、そして話した言葉がそのまま文字になって出てくるUDトークというアプリがあることが分かったので、何かあった時には役立てるように頑張りたいと思った。そして、最後に手話で話す上で一番大切なことを学んだ。それは、「表情」であり、手話は声色などの情報がない分、自分の感情を伝えるには表情を豊かにすることが大切だから、気を付けようと思った。

◎ 6月11日(火)

「子どものための看護について」

～妊婦や新生児の看護を体験しよう～

担当:大阪青山大学 看護学部

新增 有加先生

◇看護師と助産師の違い

◇妊娠による変化・バイタルサインについて

◇妊婦体験・新生児体験

≪講義の様子≫



≪生徒の感想≫

私は今回の講義で、「対象者に寄り添う」ことの大切さを学びました。看護は人の命をサポートするので、対象者に寄り添うことが基本となります。出産でも共通して言えます。お母さんに寄り添うことで、子どもをどのように産みたいかなど一緒に考え、望む形で出産できることを知りました。また、その経験が次にも活かされ、次も産みたいと思ってもらえるようになります。また、看護は責任重大な仕事ではあるけれど、やりがいがある仕事だと聞きました。私は責任を感じることから逃げてしまうことが多いのですが、将来仕事をするとときに責任と立ち向かい、やりがいを感じることができるよう、今から努めようと考えました。

今回は妊婦や新生児の看護についてお話を聞き、助産師にしかできない分娩介助の仕事があることなどを知りました。また、看護の基本は対象者に寄り添うことから始まることを学びました。男女平等社会の中で、助産師は女性しかできないことは、自分自身、よく考えさせられる問題だと感じました。実習では、赤ちゃんを抱っこしたり、心臓の音を聞いたりしました。赤ちゃんの抱っこはこれまでの実習でも何度か体験しましたが、何度やっても難しいと感じました。また今回初めて妊婦さん体験をやり、思うように体が動かず、何をするのも大変だと感じました。実際に階段を上り下りしたり、歩いたりしてみると、足元が見えづらくて怖かったです。マタニティキーホルダーを着けている妊婦さんには、自分から積極的に声をかけようと思えた実習になりました。

今回の講義では、妊婦や新生児に対する看護について学びました。まず初めに、私は看護師と助産師の違いについて分かっていませんでした。しかし、分娩介護を行うのは助産師のみであること、助産師になるためにはまず看護師の資格を取り、さらに助産学を学び、助産師の資格をとらなければならないことなどを知り、多くの知識を必要とする仕事だと分かりました。私は先生のお話の中で、「助産師はありがとうという言葉がたくさんもらえる仕事」という言葉が印象に残っています。分娩が近づいた妊婦は、子どもを産む時の陣痛や、生まれてからどう育てたら良いのかなど、不安な面がたくさんあると思います。もし私が妊婦の立場だとしたら、不安を少しでも和らげてくれる助産師が近くで見守っていてくれると、出産後、今まで支えてきてくれた感謝の気持ちを込めて、自然と「ありがとう」という言葉が出てくると思いました。

今回は妊婦や新生児の看護について学習しました。赤ちゃんをお腹に授かったら、という体験をしてみました。実際に赤ちゃんと同じ重さの荷物をお腹につけて歩いてみたり、階段を上ったりしてみました。私は5分ほど体験しましたが、それだけでも十分に疲れました。2児の母親のことを考えると、これに加えて片手に歩ける子どもと手をつないで歩かなければならないので、とてもしんどいことだと分かりました。私は男性なので、今回の体験は女性にしか分からない状態や気持ちを体験できたとても良い機会となりました。妊娠すると普通の生活が難しくなるので、パートナーのことを考えて寄り添うことが大切だと思いました。

◎ 6月18日(火)

「赤ちゃん先生 ～育児体験～」

担当:NPO 法人「ママの働き方応援隊」大阪北摂校

西田 友香 先生、ママ講師と赤ちゃん先生7組

◇託児体験

◇ママ講師の育児とキャリアデザイン講話

◇グループでの感想シェア

≪講義の様子≫



≪生徒の感想≫

普段触れ合う機会がない1歳や数か月の赤ちゃんに触れ合うことができ、とても楽しかったです。泣きわめいてしまうかと不安でしたが、私が触れた赤ちゃんは誰も泣かず、おとなしい子ばかりでした。おもちゃで一緒に遊ぼうとして、一人で遊んでいた赤ちゃんのおもちゃに触れようとしたら泣きそうになってしまい、赤ちゃんの気持ちになることは難しいと感じました。絵本を読んだときに、私が「これ何？」や「にわとりさんがいるね」と言ったら、それを指さして反応してくれて、私まで楽しくなりました。キャリアプランの話では、「子どもから教えてもらうことが多い」と言っており、その理由として、赤ちゃんは毎日立ったり歩いたり、遊んだり、毎日色々なことに挑戦しているので、自分も挑戦しようと思えるとのことでした。今回の講義で、赤ちゃんと実際に関わってみて、人形とは違う喜ばせ方や楽しませ方、他にも様々なことを学びました。お母さんからは、赤ちゃんのお世話の仕方やおむつのつけ方など、将来に関わるととても大切なことを学ぶことができました。

今回の赤ちゃん先生の授業を通して、子どもとの接し方や育て方、苦労したことなど、将来における大切なことを見て聞いて体験することができました。1回目に体験させてもらったのは4歳のたいせい君で、とても人見知りですと緊張している様子でしたが、帰る時には手を振ってくれたり、少し笑ってくれる場面もあり、嬉しい気持ちになりました。また、手足のサイズを測らせてもらったり、抱っこ体験をさせてもらったりして、赤ちゃんの手はこんなに小さいのに案外力は強いことを知りました。2回目のたいが君は最初はお母さんにしがみついていたけど、「アンパンマン」のおもちゃを出すとそれで遊んでくれました。たいが君のお母さんから、「みんな、子どもと接するのに慣れているね」と言っていたので、自信ができました。

私は身内に年下の子どもがたくさんいるため、小さい子どもと触れ合う場面が多く、子育てについて質問したいことがたくさんありました。今回の講義では質問をする時間が多かったため、自分の気になっていたことを質問することができました。そして、オムツ替えやごはんのあげ方、またどの情報が正しいのか分からないことなど日常生活でもたくさん悩みがあることが分かりました。私はこの話を聞いて、身近に相談できる施設が増えると親の不安を減らすことができるのではないかと考えました。また、保育園を選ぶ上での大切なことはしっかりと調べてから選ぶことが、子どもにとっても親にとっても良いと分かりました。

今回のヒューマン基礎の授業は、実際に赤ちゃんに触れ合ったり、子育てをしているお母さんの話を聞くことができる「赤ちゃん先生」でした。特に印象的だったことの一つ目は、どういう子に育てて欲しいかという質問に対して、「子ども本人の～したい、～ができるようになりたいという意見を尊重したい」というお母さんの考え方です。本当にすてきだと思い、私もそんなお母さんになりたいと思いました。また、西田先生が「ヒューマン基礎で色々なことを学んで、考えていた職業が自分に合わないと思ったら、いくらでも変更しても大丈夫」と言っておられ、まだ進路志望が曖昧な私の背中を押してくれる言葉だと思いました。

◎ 6月25日(火)

「コミュニケーションと手話Ⅱ」

担当:伊丹市聴力障害者協会 久保 みどり先生

手話サークルこゆびの会 山内 滋子先生

◇挨拶の復習

◇曜日や名前、お金、誕生日を表す手話単語

◇数詞の表現・・・数字の表し方はソロバンが基本

◇難聴者が日常生活で困ることと工夫について

≪講義の様子≫



≪生徒の感想≫

今日は2回目の手話講座でした。前は自分の名前と基本的な挨拶を覚えましたが、今回は時間や誕生日、お金の表し方などの数字、家族の表し方などを学びました。時間でも午前・午後・夕方・夜、数字も1から億までたくさんの表し方があって驚きました。すべての動作で少しでも違うと意味が変わったり、相手に通じなくなることがあって、難しいと感じました。手話をしていく中で、前回習ったことを忘れていたり、手の動作がまざってしまっていて分からなくなることが多かったです。また、ろう者は、耳が聞こえる人が日常生活で聞いている自然の音、人に伝えるための音、人の会話がまったく聞こえないので、聞こえる人がろう者に教えてあげることが大切だと気づきました。また、ろう者の人が困らないように、テレビでは字幕が付いたり、インターホンではお知らせランプがついたり、様々な工夫がされていることを学びました。

私は2回目の手話の講義で、「音」について考えました。私たちは日常の音のある生活が当たり前と感じていますが、この音が聞こえないということは予想以上に怖いだろうと感じました。しかし、聴覚に障害のある方は音の無い中で生活をしているので、聞こえる私たちが伝えていかなければならないと強く実感しました。この2回の講座で基本的な挨拶や指文字、日常で使う表現の手話を身につけることができたので、手話をもっと広まれば良いと思いました。手話を活かす場が私の日常に頻繁にあるわけではないですが、これからの人生の中で必ず訪れると思うので、この知識を忘れないように心掛けます。

私が今回の講義で一番学んだことは、手話にはたくさんの由来があり、素晴らしいものだということです。「朝」は布団をめくる動作、「夜」は日が落ちるためカーテンのように手を閉じていく動作、「冷蔵庫」は扉を開ける動作、「伊丹」は空港があるため飛行機が飛び動作など、私たちにとって分かりやすいものが手話であると改めて理解しました。また、「家族」は屋根の下で暮らしている様子を表したり、「父」か「母」は血がつながっているため、頬から線のように伸ばすなども分かり、これからもっと手話について学んでいきたいと思いました。また、ろう者の方々は、私たちが普段聞こえているチャイムの音、自動車の音、風、鳥などの音や声が聞こえず、事故に巻き込まれてしまったりと危険と隣り合わせだと感じました。そのため、私たちがジェスチャーや手話を使って伝えてあげることがとても大切だと思いました。また、その時はしっかりと相手の目を見て、目で伝えられる情報を増やしていくことがとても重要だと学びました。

このヒューマン基礎の2回の授業で手話を体験することができてとても嬉しかったです。手話をする上で大切なことは相手に伝えようとする心だと聞き、耳が聞こえない方の負担やしんどさを理解することで、より届けたい・伝えたいという気持ちが強まったように感じました。また、思っていたより分かりやすく覚えやすい動きの手話が多かったので、比較的すぐに手話は理解できることや、うまく伝わった時に嬉しさが広まれば、もっと手話に興味を持つ人が増えると考えました。

◎ 7月17日(水)3限

「分野別研究レポートを作成しよう」

担当:本校教員

総合ヒューマン類型の生徒が志望する「看護」「医療」「保育」「福祉」分野について、各自の進路に応じたテーマを設定し、それらについて調べ、レポートにしてまとめる。

18～27頁に作品(抜粋)を掲載。

【目標】

自分が志望する分野（職業・学部・学科等）について調べ、進路実現に役立てる。
見やすく、分かりやすい、内容の充実したレポートを作成する。

【要項】

(1) 将来、就職・進学を希望する分野を下記から一つ選ぶ。

ア 看護 イ 医療 ウ 教育・保育 エ 福祉 オ その他

(2) 「分野別研究レポート」に含める項目（★は必ず）

1. 仕事の内容
2. その職業に就くには。必要な資格。適性。
3. その分野を学べる大学・短大・専門学校。
4. 進路先で学べること。主な専門科目とその内容など。取得可能な資格。

★5. 感想

★6. 参考文献（文献名、Web サイト名、URL など）

【作成上のポイント】

(1) レポート作成にあたっての心構え

- ① 対象者は「異なる進路をめざしている高校2年生」
- ② 興味関心を抱く情報を織り込み、読みやすい構成に工夫する。
(適度な大きさの文字と目立つ見出し、効果的な記事の並べ方、など)
- ③ 丁寧に仕上げる。
- ④ Web サイトの使用は認めるが、ウィキペディア等信憑性に欠けるものは使用しない。
- ⑤ 情報を羅列するのではなく、その中から有用なものをピックアップしてまとめる。
- ⑥ コピー禁止。写しただけにならないように、自分の言葉で内容の濃いものを作成する。

(2) レポート作成の原則

- ① A4版プリント（縦向き）。枠内にまとめること。
- ② レポートの枠内の一番上に必ずタイトル・テーマを入れる。
- ③ 文字はボールペン書き・手書き。色鉛筆・カラーペンなどで明るく着色する。
- ④ 適切な図版を挿入する。(読み手の理解を助け、構成のアクセントにもなる。)
- ⑤ 引用・参考にした Web サイト名、URL や文献名を必ず記入すること。

◎ 7月19日(金)

「心肺蘇生法(AED)講習会」

担当:伊丹市池尻消防署員

◇応急手当の重要性

◇救命措置(心肺蘇生・AED)の流れ、実施訓練

≪講習会の様子≫



≪生徒の感想≫

今回の講義で、命を助けるためには意志の強さと冷静さが大切だと感じました。実際に目の前で消防署員の方が実践してくださったのを見て、声の大きさと行動の速さに驚きました。人の命を助けるためには日頃からそのような行動ができるように覚悟しておくことが大切だと思います。人を少しでも早く救うためには、意志を強く持ち、すぐに行動ができるように心がけたいと思いました。また、実際に街中で倒れている人を見かけたらパニックになってしまい、頭では分かっているのに実行するのは今の自分には難しいと思いますが、それを変えるには、どんな状況であっても冷静でいることが大事だと考えました。

今回の講習会では、救命処置について学ぶことができました。倒れた人の心臓や呼吸が止まってから救急車が到着するまでの8分間に正確な応急手当ができるかできないかで、命が助かる可能性が大きく変わることを知りました。この8分間で最善の対処ができるように、普段利用する施設や学校のAEDの場所を知っておこうと思いました。電気ショックが1分遅れるごとに7～10%の割合で社会復帰率が下がると知って、AEDの重要性を理解することができました。胸骨圧迫は一定のテンポで強く、速く、絶え間なくすることが意外と難しかったです。一人で救命処置をするのは大変だと思うので、助けを呼んで的確な指示をしたり、指示を受けたりすることが大切だと思います。年齢によって死亡につながる事柄が違ったり、救命処置の方法が変わったりすることを知ったので、それぞれの注意点を覚えておくことが大切だと思います。AEDの電極パッドを貼る位置や、呼吸の確認で見るべき場所などの細かいことまで知ることができました。

私が今回の講習会を通して学んだことは二つあります。一つ目は、周りの人と連携することの大切さです。実際に機械を使って実習をした時に、グループのメンバーの中からAEDを持ってくる人、119番する人などを決めました。本当に直面した時は自分1人だけかもしれないので、出来るだけ人を集め、協力し合うことが大切だと思います。また、普段からAEDが設置されているところを見ておくと、スムーズに動けると考えました。二つ目は、どんな状況になってもまずは落ち着くということです。実際に人が倒れていると、恐怖が勝って行動するのに時間がかかってしまうと思います。そのため、どんなことがあっても、まずは自分が落ち着き冷静になることが、行動するためにも大切だと思います。

私が今回の講習会で学んだことは、二つあります。一つ目は、1分1秒で人の命を救えるか救えないかが決まるということです。実際に、私は今回の実習中に緊張して何度か手を止めてしまいました。しかし、この手を止めてしまっている時間も患者さんの命を救えるか救えないかを決めてしまいます。そのため、しっかり落ち着いて適切な判断を行うことが大切だと思います。私の父も消防士でよく現場の話を聞くのですが、患者さんがどんな状態であっても絶対に諦めずに助けることが大切だと教えてくれました。二つ目に学んだことは、心臓マッサージは一定のリズムで行うことが大切ということです。このような行動をしっかりとることにより、脳に後遺症を残さない可能性が高まり、命が助かる確率が上がるということが分かりました。私も将来、心肺蘇生法をやらなければならない時が来るかもしれないので、しっかりと練習をして人の命を救いたいです。

◎ 9月3日(火)

「子どもが楽しく、かつ、深く学ぶ授業とは」

担当:大阪成蹊大学 教育学部

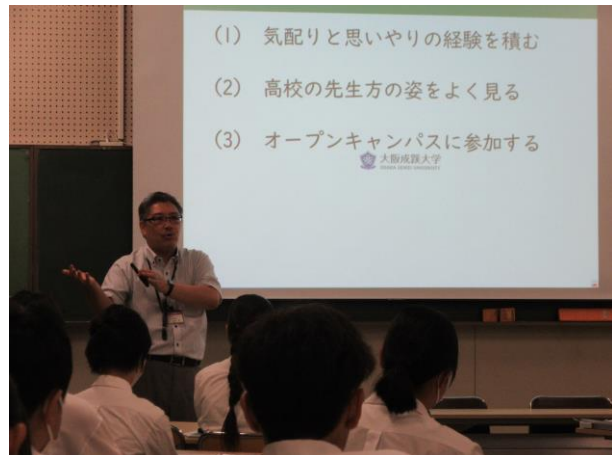
丸野 亨先生

◇ぶち模擬授業(小学校社会科)

◇授業者の工夫を見抜こう!

◇教育学部の学び

≪講義の様子≫



≪生徒の感想≫

今日は教育についての講義でした。今回は、小学校3年生向けの授業を私たちも受けて、その中で教師が行っている工夫を見つけるというものでした。話し方を会話調にして聞きやすくしたり、生徒を褒めたり、細かい工夫が必要だと感じました。中でも特に驚いたのは、伊丹西高に通っている2007年生まれの私達に対して、4枚の航空写真から2007年の写真はどれかを当てるものです。上空からの1枚の写真だけで、どの年代かを当てるのは難易度が高いですが、見慣れた町なので写真の中から幅広くヒントを見つけ出すことができ、楽しく授業を受けることができました。このように、難しい内容でも楽しく、かつ、分かりやすく人に教えるには生徒の気持ちになって工夫をすることが大切だと思いました。私は将来、教師になりたいと思っているため、今日、丸野先生が行っていた工夫と授業の展開の仕方は本当に参考になりました。これからさらに頑張ろうと改めて思いました。

今回の講義では、「子どもが楽しく、かつ深く学ぶための授業とは」のテーマ通り、人に何かを教える際に大切にしているポイントやプロセスを丸野先生から教えていただきました。その中で私が一番驚いたのは、教育は答えが合うことが全てではないとおっしゃっていたことです。私は、社会の勉強は暗記をするものだというイメージを勝手に持っていたのですが、先生方は答えを導き出すために思考することを大切にしてほしいということに驚きました。私はこれまでに人に教わる機会はたくさんあっても、教える機会はなかったので、新しい考えをもつことができて良い経験になりました。

今回の講義で2つの事について考えました。1つ目は物の見方についてです。講義では、伊丹西高校から大阪成蹊大学の距離を例えに学びました。そこで学んだ大切なことは「物の見方で変わる」ということです。例えでもクラス内で意見が分かれたように「絶対」はないということを知りました。これはこれから生きていく中でとても必要となる考え方だと思います。私は物事を考えるときに、「絶対」と決めつけてしまったり、誰かが言っている見方だけで見てしまったり、自ら視野を狭くしてしまいます。これからは、今回学んだことを活かして視野を広くして物事に向き合いたいと思います。そうすることで自分の可能性を広げられると感じました。2つ目は結論が1番大切ではないということです。結論だけではなく、その過程を考えることが大切だと学びました。私はいつも最初から結論や結果を気にしてしまうので、その前の理由を考えることを丁寧にやってみようと思いました。その工程をより大切にすることで結論や結果も変わると思いました。

今回は教育について講義をしていただきました。ぶち模擬授業では、「楽しみながら深く学べるための工夫」を108個探しながら、伊丹西高校の衛星画像4枚の中から2007年の画像を見つけるという授業でした。自分一人で考察するだけでなく、グループでも意見交換し合うことで「そんな意見もあるんだ!」という気づきも得ることができました。答えは全員同じでも、その答えに行きつくまでにはいろいろなルートがあり、一人一人違うということも学ぶことができたので、本当にいい経験になりました。「教育」の本質やその役割について再認識できた貴重な時間でした。

◎ 9月10日(火)

「作業療法士の仕事とは」

担当: 藍野大学 医療保健学部 作業療法学科

高畑 脩平先生

◇作業療法(OT)は心と体のリハビリテーション

◇「作業学」とは？

◇発達障害とは？

≪講義の様子≫



≪生徒の感想≫

今回は作業療法士について講義をしていただきました。作業療法士は主にリハビリを行う仕事なので、辛い仕事だと思っていましたが、患者さんのモチベーションを保ち、楽しくリハビリが出来るようにするといった楽しい仕事でもあることを学びました。そして、アメリカでは人気職業ランキングで1位になったことがあるほど人気の職業だと聞いて、とても驚きました。最近では、幼稚園や保育園にも作業療法士がつくことも少なくないそうです。今回の講義を通して、作業療法(OT)は心と体の両方を支えるリハビリのことだと理解することができました。

今回の講義では、作業療法士の仕事と、発達の面でどのような病気があるのかについて学びました。作業療法士は医療現場でリハビリを行うイメージでしたが、実際は保育所や学校など教育の場でも活躍することがあると知りました。仕事の内容も体のリハビリだけでなく、「その人らしい生活」を心と体の両面からサポートしていると分かりました。また、発達に関する講義を受け、発達障害のイメージが大きく変わりました。物事に取り掛かるスピードが少し遅かったり、一つのことに集中しすぎたりするなど、自分や友だちにも当てはまるような、苦手さが他の人より少し強く表れているものだと感じました。今回学んだことを看護師として働く時に活かし、病気の名前だけにとらわれずにその人自身を知るように心がけ、その人に寄り添えるような看護師になりたいと思いました。

私は「リハビリ」というものを大きく勘違いしていた。今回の講義を受けるまで、リハビリは訓練のようなものだと思っていた。しかし、リハビリは一度失ったものを再び取り戻すこと、回復すること、社会復帰することを意味していると知った。そのサポートを行うのが作業療法士であり、その活動の場は医療機関を飛び出して幅広くあることを学んだ。教育を行う学校でも、学習や運動に問題を抱え、集団生活で苦しんでいる子どもがいる。その園児や児童を平等に扱うのはもちろん、専門の大人がサポートして集団に所属しやすい環境を整えることができることは素晴らしいと思った。誰しも苦手なことが一つや二つはあるので、問題がある・ないに関係なく、専門の大人が側にいるという安心感はとても大きいだろう。そのため、今後、学校への作業療法士の導入がさらに進んでほしいと思った。もっと作業療法士の認知度が上がり、医療機関以外でも活動の場が広がってほしい。

今回は作業療法について詳しく学び、心と体のリハビリテーションということを知り、人の感情を読み取るだけでなく、「なぜそのように思ったのか」や「そのようにした経緯」など、より深いところまで考えることが大切だと分かりました。また講義の中で、ADHD診断のようなゲームをして楽しかったです、私が一番印象に残ったのは、4つの点を繋げるゲームで、点の位置を自分で書いたのに、目をつぶって線を引いていくと全然違うところに引いてしまい難しかったです。また発達障害についても教えてもらい、自閉スペクトラム症や発達性協調運動症についても初めて知り、それぞれの特徴や苦手なことを学ぶことができました。このような色々な障害を持った人と関わる職業は、その一人一人に対応していく力や観察力がとても大切になると考えました。新たに知ることができた事がたくさんあり、良い学習の機会になりました。

◎ 9月17日(火)

「栄養管理が患者の未来を変える」

担当:大阪樟蔭女子大学 健康栄養学部

井尻 吉信先生

◇栄養食事指導について

◇栄養管理について(チーム医療)

◇管理栄養士の体験談(Zoom)

≪講義の様子≫



≪生徒の感想≫

今回の講義で管理栄養士について学び、食事を通じて人と接し、人を笑顔にできる職業だと知ることができました。病院での仕事を中心だと思っていましたが、実際は保育園や幼稚園で給食のメニューを考えたり、栄養食事指導を行ったりと、様々な場面で活躍していることを学びました。栄養指導を行う時は、患者さんが無理なく続けられるような提案をしたり、調理方法を少し変えたりと、一人ひとりに合わせた方法を考えることが大切だと改めて感じました。食事は生まれてから死ぬまで一生必要なことなので、慎重にアドバイスすることが求められる職業だと考えました。また、栄養管理は様々な治療の基本となるため、栄養サポートチームが医療において食事のサポートだけでなく、運動の指導も行っていることも学ぶことができました。

私が想像していた管理栄養士は遠くから患者さんを支えるものでした。しかし、井尻先生の話聞いて、管理栄養士が色々な治療に立ち合い、実際に患者さんの近くに行って仕事をするが増えていることを知りました。私が印象的だったのは、映像で見た尾張さんという患者さんが管理栄養士のおかげで退院することができたエピソードです。尾張さんが最後に言った「ありがとう」という言葉に感動しました。尾張さんは最初は筋肉がなく、のどにご飯が通らない状態でしたが、管理栄養士が彼に合った食事を用意し、徐々に普通のご飯に近い食事がとれるようになっていました。この時に、管理栄養士が患者さんの元に行き、直接腕や足を触ったり、家族とコミュニケーションをとったりしていて、人に寄り添っていると感じることができました。私もそのような看護師になれるよう、コミュニケーションを大切にします。

今回の講義で、管理栄養士は健康を考えた献立をつくるだけでなく、他にも様々な役割がある仕事だと知ることができました。管理栄養士は患者さんと直接話をして、その人の性格や生活習慣、食生活などを聞いて、一人ひとりの患者さんに適した食べ方を教える仕事だと学びました。今回見た動画で、人間にとって食べ物を摂取することは生きていくために最も大切なことだと改めて気づくことができました。また、肥満気味の人に対しては、無理に食べる量を減らしたり運動させたりするのではなく、まずどのような生活をしているのかを聞き、調理のやり方を変えてカロリーをできるだけ少なくする方法を教えることも学びました。今回の講義を受けて、人と接する仕事はどれも相手の話をよく聞いて、その人に合った対応をすることが大切だと考えました。

楽しそうに、幸せそうにお話をする井尻先生を見て、本当にやりがいのある仕事だと思いました。食事を制限することはなく、一人ひとりの患者さんに合わせたオーダーメイドのアドバイスをしていると聞き、ストレスなく健康になれるのは良いことだと思いました。また、動画で見た栄養サポートチーム(NST)では、点滴で栄養をとるのではなく、食欲を促進させるお茶ゼリーなどで、できるだけ口から栄養をとる方針を大切にしている、患者さんの体力をなるべく落とさないようにしていることが印象的でした。「栄養は色々な医療の根本」と聞き、本当にそうだと実感しました。そして、何より楽しそうに、本当に幸せそうに話す井尻先生を見て、私も先生のように自分の仕事を誇れる人間になりたいと思いました。

◎ 9月24日(火)

「認知症サポーター養成講座」

担当:花里・昆陽里 地域包括支援センター

社会福祉法人翠松会 伸幸苑キャラバンメイト

岡本 美也子先生

- ◇ 認知症サポーター養成講座(認知症とは、症状、認知症の人の気持ち・接し方、家族の気持ち)
- ◇ 認知症者への対応等の個人ワークとグループワーク・発表

《講義の様子》



《生徒の感想》

私は今回の講義で二つのことが印象に残りました。一つ目は「自尊心を傷つけない」ということについてです。認知症の方は自分で上手くできないことに対して自信を無くしてしまう人が多いと聞きました。そのような人たちに私たちがきつく指摘したり、怒りを抱いてしまうと、それは自尊心を傷つけることになってしまい、その人の気持ちが悪い方向へとつながってしまいます。何か困っている人を見つけたら、相手の気持ちに寄り添い、優しく声をかけることが大切だと学びました。しかし、頭では分かっている、いざその場になると感情が込みあがるかもしれないので、それを防ぐためには自分の心に余裕を持つことが必要だと考えました。二つ目は「認知症サポーターには誰でもなれる」ということです。認知症を理解することで助けることができる人がたくさんいるので、認知症の理解がもっと広がれば良いと思いました。

今回は、認知症について学びました。講義では知識や症状などを細かく、分かりやすく教えてくださったので、とても有意義な時間を過ごすことができました。また、認知症の方と出会った時の接し方やサポート方法なども教えていただき、様々なスキルも身につけることができました。私が特に印象に残ったのは、認知症になった方の気持ちについてです。認知症の方は人にやさしくされた時より、怒られてしまった時の方が何倍も心に残りやすく、傷つきやすいそうです。また、様々なことを忘れてしまうので、不安や孤独感が常にあるそうです。この話を聞いて、より思いやりの心を持って接することの重要性を実感しました。講義が終わってから、「認知症サポーター」の証であるカードをいただいたので、常に周りに目を配りながら日常生活をおくっていきたいと思いました。

私は今回、認知症の種類や認知症の方への接し方について学びました。私はこれまで認知症は一つの病気という認識でしたが、実際はいくつかの病気が合わさった症状が認知症とされていることが分かりました。認知症の症状は主に二つに分けることができ、一つ目は記憶障害や判断力の低下などがみられる中核症状で、この症状は基本的には治らないものです。二つめは不安やイライラ、暴力といった行動や心理症状で、この症状は周りの人の対応によっては改善が期待できる場合もあることを知りました。また、認知症の方は覚えていないから大丈夫という認識は間違っており、介護をしている時に大声で怒鳴ったり、強い口調ではいけないことを学びました。認知症の症状である、できなくなってきたことの悔しさや、もの忘れの辛さに加えて、身近な人からの厳しい言葉が加わると、より病状が進行してしまう場合もあると思います。そのため、実際に認知症の方と接する際には、言葉遣いに注意したり、視線を合わせたりすることを意識して話をしたいと思っています。また、認知症だからこうだと決めつけず、個人個人の特徴を見て、どのような対応が適切かをよく考えて関わりたいと思いました。

◎ 10月8日(火)

「コード・ブルーから学ぶチーム医療」

担当: 大手前短期大学 医療事務総合学科

淡島 正浩先生

◇コード・ブルーとは

◇チーム医療とは

◇チーム医療 実践

≪講義の様子≫



≪生徒の感想≫

私は今回チーム医療に関する講義を受け、医療現場における多職種連携の重要性を深く理解することができました。医師、看護師、薬剤師、リハビリテーションスタッフ、ソーシャルワーカーなど、様々な専門職が連携することで、より質の高い医療が提供されるという考え方に共感しました。講義で強調されていたのは、チーム医療の基盤となるコミュニケーションの重要性です。円滑な情報共有や意思疎通がなされなければ、患者にとって最適な医療を提供することは難しくなります。また、講義の中で特に印象に残ったのは、「患者参加型」の医療の重要性です。患者が治療に主体的に関わることで、より患者に適したケアを提供でき、治療に対するモチベーションも高まる点は現代医療においてとても重要だと感じました。

私はドクターヘリの導入がこの先もっと進んでほしいと考える。ヘリを離着陸させることのできる病院や場所、環境と人手を確保することは大変だが、離島に暮らす人々や、雪山で病気やケガをした時を考えると、医者が病院で患者を待つより、医者が現場に駆け付ける方が患者が助かりやすくなる、と考えるからである。さらに、ドクターヘリで運ばれてきた患者を病院の「チーム医療」が引き継げば、より質の高い医療を受けることができる。チーム医療は互いに専門性の高い、自分の得意なことを持ち寄った、多くの職種の人々が環状型になって行う医療である。そのため、それぞれの専門分野から得られる情報を密に共有しているため、より高度な医療が受けられるということを改めて学んだ。

私は今回の講義を通して、以下の二つのことについて学ぶことができました。一つ目は、みんなで一つになって助け合う大切さについてです。チーム医療とは、医師をはじめとし、看護師や理学療法士、作業療法士、管理栄養士などの様々な専門知識をもった人が集まってできたグループのことだと学びました。そこで、1人で患者さんを診るのではなく、様々な分野の視点から見て判断することが大切だと感じました。このヒューマンクラスの中から将来、一つのチーム医療ができるのかなと思うと少しワクワクしました。二つ目は情報共有の大切さについてです。カンファレンスやカルテによって、患者さんの情報をスタッフ同士で共有し合うと聞き、患者さんの普段の生活を知ることが大切だと思いました。少しの変化にも気づくために、今のうちから周りの人たちに気を配り、広い視野をもてる人になりたいと思うことができました。

今回の講義は自分がとても大好きでよく見ていた「コード・ブルー」を軸に進められていたので、より楽しい講義となりました。以前、管理栄養士の方の講義の時にも「チーム医療」を学びましたが、今回はチームの中で一つの職業に絞って考えるのではなく、チーム医療に参加しているそれぞれの職業とその役割をさらに深めることができました。もっとも印象に残っているのは、患者や家族もチームの一員である、ということです。病気やケガの治療は医師の仕事で、家族が関わることはできませんが、治療中に一番頑張らないといけないのは患者で、そんな患者を一番近くで支えることができるのは家族です。だからこそ、精神的な治療には家族の存在がもっとも大きく、偉大であると改めて思いました。また、チーム医療には様々な人との関わりとコミュニケーションが大切だと再認識しました。

◎ 10月15日(火)

「訪問介護・訪問看護ってどんな仕事？」(DVD学習)

「ヒューマン基礎で学んだこと」(発表)

担当:本校職員

◇11月28日の講座の事前学習(DVD 学習とアンケートの記入)

◇ヒューマン基礎で学んだことを全員が発表し、発表者以外は審査用紙に記入

《講義の様子》



《生徒の感想》

自分の発表については、単語ごとに覚えて顔をあげることを意識しました。これまでの発表より緊張せずに落ち着いて話すことができたので良かったと思います。しかし、声が少し小さかったと感じたので、もっと堂々と大きな声で発表できるように何度も練習し、自信をつけることができるように努力する必要があると思いました。友だちの発表では、「赤ちゃん先生」の講義について話している人が多かったです。しかし、学んだことや受け取り方が違うことに気づきました。最初の1年生の時の発表よりも、顔を上げてスラスラ話すことができている人が多くて、伝えたいことがより伝わりやすいと感じました。発表を聞いている時は、顔を上げてうなずきをしたりして、良い雰囲気作りができるようにしたいです。

自分の発表については、授業が始まるまで何回も原稿を読み込んだけれど、思っているように喋ることができませんでした。しかし、私なりに伝えたいことは伝えられたので良かったです。次の発表の際は、今回よりももっと成長した姿を見せることができれば、と思います。何回も発表はしており、慣れてくるはずが一切慣れず、緊張ばかりしてしまいます。次はもう少しリラックスしてみんなのことを見渡せるぐらいになりたいと思いました。

みんなの発表を聞いて、大半がコミュニケーションについて話していました。そのため、人と関わる中でコミュニケーションがいかに必要かが分かりました。今回の発表をそのまま入試の時に活用していきたいと思います。自分の発表の反省点は、言いたいことを忘れてしまったり、緊張しすぎて周りを見渡すことができず、声があまり出せなかったことです。次は改善することができれば良いなと思います。

自分の発表については、少し文章がおかしくなってしまったと思いますが、良い発表ができたのではないかと思います。発表前に「1年」と言ってしまったり、発表の途中で「保育士」を「看護師」と言い間違えるミスもありましたが、少し緊張がほぐれて、良い発表につながったと感じました。発表する際に身振りや目配りなどもしたかったのですが、余裕がありませんでした。余裕がないということは、スキルがまだまだ足りないということだと思うので、改善できるように努めたいと思います。

みんなの発表を聞いて、感じることは人それぞれで、32通りの思うことや感じ方を知ることができて良かったし、私の考え方にも変化を与えた部分がありました。発表を聞いて、「コミュニケーション」や「努力」、「あきらめない心」、「相手を思いやる心」をヒューマン基礎で学んだ、と発表する人が多く、私もこれまでの講義を思い返しました。私はヒューマン基礎で学んだことは決して無駄にはならないと思います。必ずどの分野でも役立つ土台を教えてもらったので、これからの将来に向けて頑張りたいと思います。

◎ 11月5日(火)

「保育の内容について～環境指導と健康指導～」

担当: 関西学院短期大学

持田 葉子先生

◇ 保育における「指導」の意味

◇ 保育内容の5領域とは

◇ 保育内容「環境」と「健康」

≪ 講義の様子 ≫



≪ 生徒の感想 ≫

自分が幼い時は何も考えずにただ楽しいと思いながら遊んでいたけれど、本当は遊ぶことにはたくさんの意味が込められていると知ることができました。そして、保育の中にも指導があり、それは直接的・具体的な体験を通して行うということを知りました。直接的・具体的な体験は主に遊びです。遊びは周りの人が強制するのではなく、子どもの欲求に基づいていること、興味・関心を持って遊ぶことが遊びを通しての指導だと知りました。保育内容には5領域があり、それは健康・表現・言葉・人間関係・環境であり、それらは遊びを通して学んでもらうことが大切だと知りました。遊びにはこのような色々な領域の要素が含まれていて、毎日の遊びを通して総合的に子どもの成長を見ることが大切だと考えました。

今回の講義を聞いて、幼稚園で身につけられることは、健康・表現・人間関係・言葉・環境の5つの領域があると知りました。その中でも特に詳しく説明していただいたのが、健康と環境についてです。健康については、明るくのびのびと行動し、充実感を味わうことや進んで運動しようとする姿を伸ばすというねらいがあると分かりました。また、安全に気を付けて行動が出来るようになるなど、自然と安全面についても成長できる場所だと分かりました。私は今まで幼稚園は遊んで過ごす楽しい場所で、幼児が勉強面で成長する場ではないと思っていたので、健康面だけでもこんなにたくさんの学びがあると知り、幼稚園で一緒に過ごした先生方に感謝しなければならなかったと感じました。環境面では発見を楽しみ、それを生活に取り入れることや、自然と触れ合う中で様々な事象に興味・関心を持つことがねらいとされていることが分かりました。私は幼稚園で野菜を楽しく植えていましたが、野菜の育て方を学び、植物に触れることで自然と食育も受けられていると分かりました。これから幼稚園児に関わる際には、身近なものを利用して、自然に触れられるような遊びを考えて、一緒に遊んでみようと思いました。

今回は保育の環境指導と健康指導について講義をしていただきました。保育における環境指導と健康指導は、子どもの成長と発達において重要な役割を果たすということを学びました。環境指導では、子どもが安全で快適な環境で過ごすための基盤を築くもので、周囲の様々な環境に関わり、それらを生活に取り入れるということを行います。私が小学生の時に育てていたキュウリやトマトも環境が整っていたから栽培することができていたので、環境指導はとても大切なことだと思いました。健康指導では、子どもたちの身体的・精神的な健康を支えるために欠かせない要素で、子どもたちが自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うことを目的としています。遊具を使用する際には、子ども一人一人の発達具合を日頃から見ておくことで、どのような遊具だったら使用して良いのかという指導をする必要があります。しかし、すべてのリスクを禁止するのではなく、子どもの挑戦心・冒険心を尊重することも大切であるということを知りました。また、講義の中で、新聞紙を丸めたりちぎったりして、色々な遊び方を体験しました。工夫を重ねることで、遊びを通して学びを深めていくことが出来ることが分かり、良い経験になりました。

◎ 11月12日(火)

「医療の仕事について」

担当: 森ノ宮医療大学

石塚 充弘先生

◇ 医療者の魅力とは

◇ これらかの医療者に求められるもの

◇ チーム医療

≪ 講義の様子 ≫



≪ 生徒の感想 ≫

今回の講義を通して医療について深く学ぶことができました。今まで医療とは手術や投薬によって病気や怪我を治すものだと思っていました。しかし、実際にはそれだけではなく、予防医療・終末期医療・全人的医療の3つの種類があることを学びました。身体的な面や精神的な面をみて、その患者さん一人一人に適した治療をすることが大切だと知りました。医療という仕事の分野は、人の命や人生に関わる仕事であり、ミスが許されず、夜勤もあるために不規則でハードな仕事であり、ストレスも溜まります。しかし、それ以上にやりがいがあることも知ることができました。また、患者さんからの信頼を得るためには、相手の立場になって物事を考える力が大切だと知りました。私は看護師になりたいと考えているので、もっとコミュニケーションを大切にしていきたいと思いました。

今回の講義で一番大切だと思ったことは、患者さんとの信頼関係をしっかりと築き、責任感をもって取り組まなければならないということです。病気や怪我になってしまったら、医療者が協力して患者さんを治すことが大切だと思っていました。しかし、今回の講義で、医療者の考えだけでなく、患者さんがどうしたいのかという気持ちに寄り添いながら、患者さんの考えも取り入れることがとても大切だと学びました。病気や怪我を治すのは患者さんなので、どれだけ信頼関係を築くことができるかに関わってくるのではないかと考えました。また、各専門職で患者さんにどのような処置をするか、どんなリハビリを行うかが違うため、改めてチーム医療が大切だということが分かりました。

今回は医療の仕事について講義をしていただき、まず、「医療」とは病気や怪我を治すことだけではなく、患者さんの健康や生活など、その人のすべてを見て治療することだと学びました。私は「医療」という言葉は知っていても、しっかりとした内容は知らなかったので、新たな知識を増やすことができました。次に医療者として大切なことは、患者さんのことを一番に考えて仕事をする、常に向上心を持ち、継続して仕事を行うことだと学びました。また、チーム医療についても学びました。一人の患者さんに対して、様々なスキルを持つ医療スタッフが連携し、治療を行っていくことで、医師が一人で治療を行うよりも、効果的に治療を行うことができるメリットがあります。医療職の方はストレスを抱えながらも、私たちに见えないところでたくさんの仕事をしてくれていることを知り、私も誰かを助ける存在になりたいと思いました。

私が今回の講義を受けて一番印象になったのは、患者さんが「がんになって良かった」と言っていた話です。「人はいつか死ぬ時が来る。それでもこの病院の看護師に出会えてよかった」という感謝の言葉を伝えたエピソードを聞き、医療の仕事の大きなやりがいを知ることができました。医療職は国家試験に合格した高い専門知識と確かな技術を身につけた人しか就けず、またその資格は生涯有効である反面、少しのミスも許されない厳しい世界であることも知ることができました。しかし、患者さんからの感謝の言葉を受けることで、自分が人の役に立てたと実感できることは、医療に携わる人にとって大きな励みになると思いました。

◎ 11月19日(火)

「地域防災と共助 ～避難生活編～」

担当: 関西国際大学 経営学部

田中 綾子先生

◇ 地域で助け合う共助の重要性

◇ 救命現場での選択

◇ 避難所開設ゲーム

《講義の様子》



《生徒の感想》

最近、地震などの災害の報道が増えており、警戒感が高まっている中でこのような講義を受け、とても勉強になりました。自然災害はどの時間、どの季節に起こるかによって被害の大きさが異なるという事実に驚きました。避難所の生活環境は快適ではなく、プライバシーがないため、私たちが今住んでいる環境はとても恵まれているのだと改めて感じました。いつか南海トラフ地震が起こって避難所で生活することがあったら、広い心を持ち、周りの事も考えることができる人になりたいと思いました。避難をするにあたって大切なことは、共助だと知りました。避難をした時に公平か平等なら、私は公平のほうが大切だと感じました。そして何よりも大切なことはルールを作り、みんながそれを守ることだと思いました。

今回の講義では、自然災害やDMATについて学びました。自然災害が起こった際には、「自助」・「公助」・「共助」が重要になると分かりました。私は今まで地震が起こると自衛隊が派遣されている場面をテレビでよく目にしてきました。被災地の方にとって大きな支えになる反面、公助に携わる公務員が被災した場合、うまく機能しないことも多いことを学びました。そのため、自助や共助を意識することで、災害時に速やかに行動出来たり、多くの人を助けられると知りました。また、自然災害は多くの場合、いつ発生するか具体的な予想は立てられません。そのため、いつ災害が起きてもおかしくないという意識を持ち、災害に備えておくことが必要になると思います。また、DMATという災害発生時に活躍できる機能性をもった医療チームの存在について初めて知りました。災害時にどの人を優先的に治療するかや、病院同士の連携の手伝いといった責任感の強いものであり、災害時にとても必要なチームであることを学びました。

本時の講座を受けて、地域防災というものを初めて知り、グループワークを通して避難した際にどう行動するのかということを深く考えることができました。災害が起きた際、大切なのは身近な人同士でお互いを尊重し合い、助け合うことがとても大切だと分かりました。また、クロスロード体験を通して、避難所で生活する上で、臨機応変に対応すること、事前にしっかりと全員にストレスがかからないルールを作っておくことの大切さを学びました。将来、災害が起こった際に、今日のことを思い出して活動したいです。

今回の講義で私が一番大切だと思ったことは、災害時には周りの人たちと協力して支え合ったり、素早く判断することです。災害時には道がふさがれていたりするので、なかなか救急車が来れないこともあります。その時に、私たちや周りの人でまず何をすべきか、助けなければならない人をどう助けるかなど、たくさんの人で協力して災害を乗り越えなければならないと感じました。また、クロスロードでは、YesかNoではっきりと意見を出さなければならず、初めは自分の意見に自信が持てませんでした。しかし、慣れてくると自分でしっかりと意見を持って判断することができ、また、反対の意見の人の話もしっかりと聞いて、自分の意見に取り入れることができました。

◎ 11月26日(火)

「訪問介護・訪問看護ってどんな仕事？」

担当: ステップこはま24hケアステーション

廣木 聖子先生, 吉川 由紀先生

- ◇ 訪問介護の仕事 ◇ 訪問看護の仕事 ◇ 利用者さんの一日
- ◇ 実際の利用者との関わり～やりがい？怒られたらどうする？～ ◇ コミュニケーションについて

《講義の様子》



《生徒の感想》

今回、訪問介護・訪問看護の話を聞いて、ヘルパーの仕事の内容や、看護師と介護士のやりがいについて深く学ぶことができました。まず、ヘルパーの仕事の内容は、利用者の家に訪問し、利用者本人が決めた事をもとに仕事をする事です。その決められた事の中でも、身体介護と生活援助の2種類があります。身体介護は食事をはじめ、入浴や排せつ、移動や更衣などの利用者の身体に直接触れて行うこと、生活援助は掃除、洗濯、調理などの日常生活の援助をすることです。ヘルパーや訪問看護師は担当する利用者が1人ではないため、1日の中で色々な家を回り、人によっては1日に2回以上、同じ家に向かうこともあります。そのため、移動が苦にならない人、1人で仕事をしたい人が向いているそうです。お話の中で、「介護・看護は大変だけでなく、それ以上にやりがいを持って過ごせる」と聞き、私はさらに人のために何かができる、そんな職業に就きたいと思い、また高校生のうちからもっと知識を身につけたいと思いました。

訪問介護と訪問看護の二つのサービスが連携していることで、利用者はより質の高い生活ができると感じました。どちらも家で生活している人たちが安心して暮らせるようにサポートする大切な仕事だと思います。これらの仕事は利用者さんとの信頼関係が大変重要なため、しっかりとしたコミュニケーションが欠かせないと思いました。訪問介護や訪問看護の仕事に対する理解が深まり、これらの仕事は高齢化社会においてますます重要になり、同時に、人の生活に直接かわり支えるという意義がある仕事だと考えました。

寝たきりの人も一人暮らしができる、幸せな日常を送ることができるなんて聞いて驚いた。この驚きは、私が無意識に障害の重い人や病気がちな人は一人暮らしができない、してはいけないと思っていたからだ気づいた。ヘルパーさんなど訪問介護に関わる方々を知って、今すぐこの考えを捨てるべきだと思った。「障害＝できない」は人の力を借りることで「できる」に変えることができる。それによって、利用者さんの生活が豊かになると知った。また、利用者さんをサポートするヘルパーさんが時間を厳しく守る理由は、単に仕事をスムーズにこなすためだけではなく、利用者さんが待っているからだを知った。何時にヘルパーさんが来る、という予定があれば、利用者さんはその時間までを楽しみに待ったり、時間を気にしたりするため、時間通りに訪問することが利用者さんにとっての幸せや楽しみを生み出すことを学んだ。

今回の講義の中のグループワークで新たな発見がありました。挨拶の仕方一つをとっても、様々な伝え方、伝わり方があるということです。例えば、今回の条件は、相手はご高齢の方で椅子に座っています。どのような声量で挨拶をすれば良いのか、顔の位置・表情はどのようにすれば良いのか、もしくはそれ以前にどのようなして自分の存在を相手に気づかせるのかなど、伝え方について考えることは様々です。また、相手に失礼のないように、かつ親しみやすくする必要もあり、伝わり方も非常に大切です。また、これらは挨拶に限った話ではなく、日常におけるあらゆる場面でその場面に適した対応が求められます。この対応の使い分けこそが、「コミュニケーション能力」であると今回の講義を経て思いました。

◎ 12月3日(火)

「ディベートⅠ～導入～」

担 当:本校教員

◇ディベートとは、ディベートの必要性・目的・流れ、ディベーターの心得・注意事項、審判の心得

◇NHK 高校講座『マイクロディベートをやってみよう』を視聴

◇マイクロディベート:「お年玉は使い切るべきである」「無人島に一つ持っていくならナイフだ」

《 講義の様子 》



◎ 1月14日(火)

「ディベートⅡ～論理の構成・情報収集～」

担 当:本校教員

◇ディベートのための準備:

各テーマについて情報収集し、班ごとに情報を分析する。資料をまとめ、作戦会議を行う。

◇テーマ

「日本はデザイナーズベビーを法的に認めるべきである」

「日本は延命治療に対しての保険適用をやめるべきである」

「日本は15歳未満の SNS 利用を禁止すべきである」

「日本は高校でも学年担任制を採用すべきである」

《 授業の様子 》



◎ 1月28日(火)

「ディベートⅢ～実践～」

担 当:本校教員

《ディベートの様子》



《生徒の感想》

今回のディベートを通して、自分の足りていない所を見つけることができました。まず、事前学習、情報収集ではたくさんの情報の中から正しく、テーマに沿った情報を読み取ることに苦戦しました。また、本やネットに書いてある言葉が難しく、言葉を調べて文章を理解したことが多くなってしまったので、自分の語彙を増やすことが必要だと感じました。本番では私は質問を担当したのですが、事前に用意していた内容よりも深い立論が来て、自分の用意が甘かったと思いました。結局、質問は一つしかできず、後悔の残る結果でした。これを踏まえて、まず準備を念入りにするべきだと感じました。色々なところから複数の知識を得て、他の知識を結び付けることも大切だと学びました。もう一つは、聞くと同時に理解できるようになることです。私は話を聞きながら考えてしまうことが多いので、話を聞くと同時に理解できるようになります。

事前学習では、まず「デザイナーズベイビー」がどのような取り組みなのかを、班の全員が理解できるようにしました。また、図書室でたくさんの本を読んで、「デザイナーズベイビー」に対してどのような考え方があるのかを学ぶことができました。情報収集では、ディベートの中で使用する資料や写真などをたくさん印刷しました。また、私たち側の意見だけを考えるのではなく、相手が立論で言いそうなことや、質問されそうなことを予想して、それに対する意見などをしっかりと考えることもしました。最終弁論については、あまり意見がまとめられていなかったため、情報収集の際にしっかりとまとめるべきだったと反省しています。本番では、私は反駁の担当だったので、相手の立論を一字も聞き逃さないように集中して聞きました。幸いにも、相手の立論の中に私たちが予想していた内容がきたので、それに対する反駁はできました。しかし、もう少し分かりやすく相手に伝えることができれば良かったと思います。

実際にディベートをしてみて、とても難しかったです。自分たちが予想していなかった意見や質問があり、事前準備が大切だと感じました。先生方も言われていたように、質問を考えることが非常に難しかったです。相手がどのようなことを言うのかを事前に予測し、それに対する質問を考えておく必要があることを学びました。テーマに対して、最初、私は否定的な意見を持っていましたが、調べていく中で肯定の意見も知りました。肯定の意見にもふれることで、一つの意見だけではなく、様々な意見を取り入れることが大切だと改めて感じることができました。そして、本番の中で与えられた時間を最後まで使って仲間と作戦会議をしたり、意見を述べたりすることが大切だと思いました。

今回初めてディベートをしてみて、思っていた以上に調べ学習が大変でした。また、延命治療という普段あまり考えないことがテーマだったので、新たに詳しく医療について調べて学ぶことができたので、良い経験になりました。私は今まで、ディベートは自分側の意見だけを考えて、相手と話すだけだと思っていたけれど、今回ちゃんとしたやり方を学習して、相手の立論も予想しながら考えなければならないことを学ぶことができました。また、批判的な意見を言われた時に、それも一つの意見として素直に受け止めること、反論するなら相手が納得するような意見を言うことなど、たくさんのことを学びました。限られた短い時間の中で、自分たちの意見をまとめて人に伝えることの大変さを実感しました。将来、カンファレンスなどで、自分の意見を誰もが納得する形で説明しなければならないことがあるので、今回のディベートで学んだことを将来使えるように頑張りたいです。

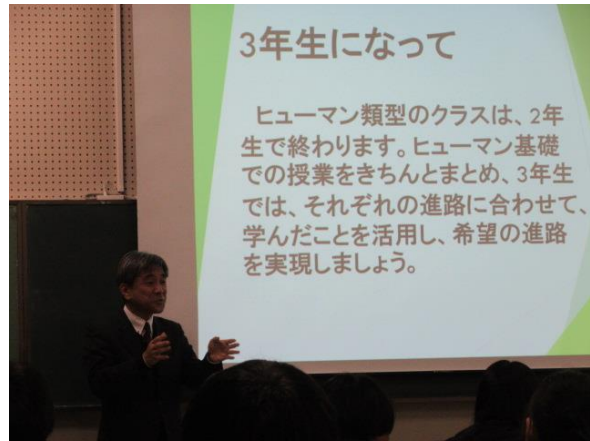
◎ 2月4日(火)6限

「ヒューマンの力」

担 当:本校キャリア支援部 前田 芳博先生

- ◇ AIが人に勝っていること(記憶力、計算力、単純作業)・人がAIに勝っていること(感情・想像力、臨機応変さ)
- ◇ 受験パターン、入試時期、試験内容 ◇ 入試対策(自己PR・面接)

≪講義の様子≫



≪生徒の感想≫

近年の日本では、AIに仕事を取られることに対する不安は、多くの人にとって現実的なものです。仕事とは単に生計を立てる手段ではなく、人が社会とつながり、自分の価値を実感する場でもあります。その意味で、AIの進化は「人間がより創造的な仕事にシフトするチャンス」であると思いました。また人間は、人間でしか分かることのできない感情で触れ合うことができるので、AIに負けないように頑張っていこうと思いました。

面接は、ただ質問に答えるだけではなく、自分の考えをしっかり整理し、伝え方を工夫することが大切だと思いました。特に第一印象や話し方の丁寧さ、内容の具体性など、細かい部分まで意識する必要があることが分かりました。また、面接では暗記した答えを話すのではなく、自分の言葉で伝えることが重要だと学びました。緊張する場面だからこそ、事前に準備をしっかりとっておけば落ち着いて話せると思いますし、自信にもつながると思いました。自分らしく受け答えできるように頑張りたいです。

今回の講義で、ヒューマンクラスの志す職業は、AIの発達によるAIに代替される可能性は低いという話があったが、ここで考えることとして「自分がAIに勝るものはなにか」がある。AIでは替えが利かない、ポジティブな人間らしさは何なのかが、今後大切になることだと思う。そのポジティブな人間らしさを自分たちよりももっとAIの発達した次の世代の子どもたちにもつないでいきたいと思った。

ヒューマン基礎の授業を通して、書く力が1年生の時よりもついていると実感する。さらに、週に一度、外部講師の方が来られるので身だしなみや挨拶は当たり前になるようになっている。しかし、一人で頑張るということが苦手かもしれないと思った。グループワークも多く、ディベートを終えた今、協調性や発言力は身につけてきたが、一人で調べてまとめたり、一人で挑戦したりすることは不安も大きく、今のままだと力は出せないと思う。十分な準備が必要だと思った。

AIの進化に伴い、多くの仕事が自動化されていき、特に単純作業は効率化され、人間の必要がなくなる場面が増えると改めて知りました。しかし、AIが人間に劣ることも少なくないため、人間は新たなスキルや知識を習得して、変わりゆく状況に適応する必要があると思いました。最終的にはAIと人間がそれぞれの強みを生かしながら協力し合う未来を築いていくことが重要だと思います。AIがもたらす影響を考え、問題意識を持っていこうと思いました。

大学や専門学校の入試についての講義を受け、様々な視点から考える機会を得ました。特に印象に残ったのは、入試が単なる知識のテストではなく、将来の可能性を見極める重要なプロセスであるという点です。内容は学校によって異なり、教育方針や求める人物像が反映されています。また実技試験では、自己表現力やコミュニケーション能力も重要な要素となります。入試は1つの通過点であり、その先に広がる可能性を考えると前向きな気持ちで取り組むことが大切だと感じました。

◎ 2月4日(火)7限

「面接指導」

担 当: 本校教員

◇「高校生のための面接対策 DVD」を視聴

3つのポイント、集団面接では、協調性、自主性、コミュニケーション能力

◇面接のための準備を行う。(自己 PR、長所・短所、学校生活で頑張ったこと、志望理由 等)

≪講義の様子≫



≪生徒の感想≫

面接対策の DVD を見て、態度や言葉がとても大切だと感じました。態度や動作は受付の時から始まっていて、日頃からこころがけていないと、自然にはできないと思います。その為、日頃から意識して生活できるようにしたいです。また、面接では様々な場面で言葉が重要になります。全ての場面の言葉を準備することはできないので、臨機応変に対応できるように、自分の語彙を増やしておく必要があると思いました。日常で使っている言葉遣いではなく、面接で使える言葉遣いを少しずつ覚えていきたいです。

面接は自分が思っている以上に難しく、細かいところまで見られていると思いました。その中でも第一印象は大切だと改めて感じる事ができました。また、言葉遣いがとても難しいと感じました。若者言葉やら抜き言葉などの普段、私たちが使っている言葉では話してはいけなくて、注意しないといけないと思いました。そして、集団面接では協調性、自主性、コミュニケーション能力の3つが大切だということを知りました。私は面接で受験する予定なので、今回学んだことを意識し、自分の熱意をしっかりと伝えたいです。

今回の DVD を見て、面接の際に気を付けるべき部分を学んで、私が気が付かなかったことがあり、とても勉強になった。面接の内容は「結論→理由→意思→結論」の順番で話していくと良いと知った。私は面接を苦手としているのでこの方法を使っていきたい。今回学んだことは受験の際にとっても重要になってくるので活かしていきたい。

今回、面接対策の DVD を見て、話し方のコツや文章を簡潔にまとめるなどの、まだ自分に力がない部分がたくさんあると感じました。特に応用編の短所の部分では、ネガティブなイメージで終わるのではなく、改善に向けるアピールが必要だと思いました。今の自分では、言い回しや客観性のある内容を伝えることは難しいと思うので、これから高校3年生に向けて、普段の過ごし方や考え方を一度、見直そうと思いました。

面接対策の DVD を見て、私の高校受験の時のことを思い出しました。当時の私は面接への対策を入念に行っていたので、マナーなどをよく知っていましたが、今日、久々に面接について学んだので忘れていたことも多く、学び直さないといけないと実感しました。また、DVD はマナーについてとても詳しく説明してくれていたのが、私がまだ知らなかったこともたくさんあり、良い学びになりました。私たち総合ヒューマン類型の人は、大学入試に面接が必要な人が多いと思うので、友人とマナーを確認し合ったり、一緒に面接の練習をしてみたりと、お互いに助け合って、入試対策を行っていきたいと思いました。

◎ 2月4日(火)7限

「1年間を振り返って」

担 当: 本校教員

≪ 1年間の反省・感想・印象に残ったこと ≫

1年間ヒューマン類型で過ごしてきた中で、1番印象深いことはクラスの団結力です。私は自分に甘くなってしまうところがありますが、ヒューマンクラスの皆は常に自分に厳しく物事に取り組んでいて、その影響を大いに受けて、壁を乗り越えることができました。私が成長できたのはクラスの団結力が強く、自分に厳しい人たちの集まったヒューマン類型のおかげだと思います。来年はヒューマン類型のクラスではなくなりますが、成長できた部分を続け、さらに自分が影響を与える立場になりたいです。

この1年間で学んだことは大きく2つあります。1つ目は将来への視野が広がったことです。最初は保育や看護に興味がありましたが、2年生で初めて心理学の講義を受けました。講義を聞いてとても惹かれ、次第に「心理に進んでみたい」と思うようになりました。2つ目はコミュニケーション能力が上がったことです。ディベートでは、スラスラと話せるようになったと思います。これは、約2年の間、様々な講義を受け、先生方のお話を自分の中にしっかりと取り込めたからだだと思います。引き続き頑張りたいと思います。

1年間を通して、乳幼児から高齢者の方まで、様々な人について知ることができました。多くの講義を受けた中で印象に残っていることは、「相手のしたいことを尊重する」ということです。保育の仕事でも看護の仕事でも、相手のしたいことを尊重して、それをサポートすることが大切だと分かりました。相手のしたいことや感情を汲み取り、理解するためのコミュニケーションの方法やポイントを知ることができたので、人と接する際に活かしていきたいです。

この1年で印象に残ったことはディベートです。論理的思考力を高めて、客観性を持つことができるからです。ディベートでは瞬発力や冷静さも求められ、学ぶことが多かったです。勝敗だけでなく、相手を理解することも成長につながり、とても良い勉強になりました。反省すべき点は、自分の知識の無さです。多くの知識を得て、社会に出ても恥ずかしくならないように日々努力しようと思います。とても濃い1年でした。

最初は講義を聞くことと、メモを取ることが同時にできなくて、書き漏れや聞き逃しも多かったが、ヒューマン基礎の講座を通してメモを取るタイミングやリアクションなど、話の聴き方を学び、内容の濃い、意味のある授業づくりに励むことができた。どの講義も初めて知ることや自分の反省点が見つかり、学校生活や将来のヒントになることも多く、ヒューマンの授業が自分自身につながられたので、学びの深い、成長ある一年になったと感じる。

1年間を通して印象に残ったことはディベートです。理由は、本番まで班の皆と準備して、相手の立場になって考えたり予想することが難しかったからです。自分の意見でなくてもその立場になって考えることや協力する力がこのディベートを通して身についたと思います。ディベートの中では質疑応答を予想することが特に難しく、本番では考えた質問が来るかとても緊張しました。反省は、質問を1つしかできなかったことと、グラフなどがあるといいと思ったことです。

この1年間を通して、非常に多くの学びがありました。人間関係の構築の重要性やコミュニケーションの技術、相手の気持ちを理解することの大切さなど、具体的なスキルを身につけることができました。また、異なる分野の講義を受けることで視野を広げる良い機会となりました。多様性を理解することや異なる価値観に対する柔軟性を養うことができたのも大きな収穫です。人との関わりの中で自分自身も成長できるという実感を得ることができました。

1年間、ヒューマン基礎の授業で一番印象に残っているのは「医療の仕事について」の講義です。その中で、医療従事者は常に学び続けなければならないということを学び、自分が目指している将来に責任を持つようになりました。全体の講義を通して、人と関わる仕事は相手の気持ちを大切にすることが大切だと学び、ディベートでは自分の意見を正しく伝える力を身につけることができました。これまで学んできたことをしっかりと今後活かしていきたいです。

ヒューマン基礎の講義で自分の目指している職業について深く知ろうとしました。私は看護師になりたいと思っていましたが、講義を受けて、保健師として地域の方の心のケアや健康のアドバイスなど、地域と関わる仕事がしたいと思いました。クラスには、看護分野を目指している人が多く、相談できて良かったです。

《来年度に向けての意気込み》

来年度は自分の目指す理想像を見つけたいと思います。ヒューマン基礎の講義でたくさんの人間性を学んだ上で、自分の今ある素質も残しつつ、将来に役立つ人としてどのような人になっていきたいかを考えていきたいです。その為には、自分を理解して良いところを伸ばしていく必要があると思います。今年のヒューマン類型で自分の良いところを引き出すことができたので、来年度はそれを伸ばしていきたいです。将来の自分をイメージして、目の前の物事にも取り組みたいです。

私はヒューマン基礎で、コミュニケーション能力と人との関わりやつながりを学びました。昔から人と話すことや関わることは好きでしたが、いつも自分のことしか考えずに発言していました。相手のことを思いやって発言しようとしてもできませんでした。しかし、ヒューマン基礎で、コミュニケーションをとることの大切さやコミュニケーションは相手を思いやって発言することが大切だと知ることができました。これを活かし、来年も相手のことを思いやってコミュニケーションをとっていきたいです。

来年度は、これまでに学んだ知識をさらに実践的に活かせる1年にしたいです。講義での学びやこれまでの実習などの経験を通じて、実際の現場に必要な技術や対応力を身につけたいと思います。特に相手の気持ちを理解し、寄り添う姿勢を大切にしながら周りを考えられるようになりたいです。また知識や技術だけでなく、人としても成長していきたいです。困っている人に手を差し伸べるやさしさや、冷静に判断できる力、自分から積極的に学び続ける姿勢を忘れずに、来年度も全力で取り組みます。

ヒューマンクラスは同じような志を持った人の集団であるため、団結に関しては全く遺憾なく力を発揮することができたが、来年度、ヒューマンクラスは解散してしまう。そこで、ヒューマンで培った協調性や団結力を次のクラスにも伝えることが大切だと思う。受験が始まる中で、まず自分から良い雰囲気を出し、周りの友達やクラスに良い影響を与えられるように努めたいと思う。

来年度はヒューマン類型で学んだことを活かして具体的に進路を考えたいと思います。ヒューマンでコミュニケーション能力や協調性などたくさんのことが身についたと思うので、3年生になっても学んだことを忘れずに頑張りたいです。自分のできることをして、後悔しないようにしたいです。高校生活もあと1年なので、行事や部活動も精一杯頑張りたいです。

来年度に向けて、さらに積極的にコミュニケーションをとるように心掛けていきたいです。友達や先生とのコミュニケーションを大切にして、より多くの人と関わり、視野を広げていきたいです。また、授業や学校行事にも積極的に参加し、自分の意見や考えをしっかりと伝えていきたいです。看護師になるために自分のことはもちろん相手のことも考えて接し、周りに目を配れる人になりたいです。将来に向けて、どんな場面でも前向きに取り組んで、目の前のことを精一杯頑張りたいです。

高校3年生になるにあたり、私は新たな挑戦と成長の1年にしたいと考えています。勉強に全力を注ぎ、自分の目指す進路に向けて着実に準備を進めたいです。学びを振り返り、弱点を克服するための計画を立てて、毎日少しずつでも前進することを心がけます。また、先生や友人とのコミュニケーションを大切にし、支えあいながら成長したいです。高校生活の集大成として、充実した1年を過ごし、将来への第一歩を踏み出すための基盤を築くことを目指します。自分を信じて、最高の結果を手にするように努力を続けたいです。
